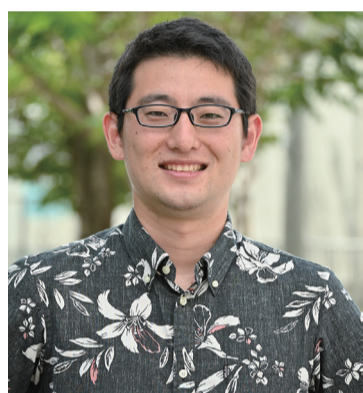


SUMITOMO

拠点所在地



具志堅義社長

2021年2月に現会長の具志堅一真氏から経営のバトンを受け継いだ具志堅義社長は「今ある資源や設備を活用して、利益率を高める事業運営に舵を切っている」と話す。将来的に稼働日時や事業エリアの拡大も進めていく方針だ。

ただ、決して社内には仕事を強要することはない。会社には「社員が物心両面で豊かにならなければならない」との指針がある。仕事が終われば家族と夕食を共にする、十分な休日を取って家族サービスや趣味に興じるなど、一人ひとりが充実した生活を送ってこそ、会社の業績や成長につながるという考えだ。こうした本来の人間の生活のあり方は、近年の若者の思考にも合致する。

創業者の具志堅善義氏によって1954年に誕生した三和金属は、来年に創業70周年を迎える県下有数の老舗リサイクル企業だ。那覇市を含む人口密集地の沖縄本島南部エリアに2つの工場を持ち、金属リサイクルと産業廃棄物処理事業を行っている。「安

物心両面の充実を組織の力へ 全社員対象の他社視察も

「スクラップはやはり人」(具志堅社長)と話のように、仕事においては顧客との円滑なやり取りが取り引きの継続性を左右するため、社員育成には強いこだわりがある。

例えば、年に1度実施する県外の同業他社や異業種への企業訪問は、事務職を含む全社員を対象としている。「新たな気づきを得るだけでなく、自分の仕事はどう役立っているかを理解する上でも大きな効果がある」という。

人を育てる様々な施策が組織力を高め、三和金属の永続的な成長につながっていく。

「誰でも利用できる会社がモットー」「リサイクルを身近なものに」

全社を経営理念の最重要項目に掲げて、誠実「スピード」「創造」「情熱」「継続」の5つを社是とした事業展開を図っているという。

金属スクラップの月間処理量はおよそ1000ト。アルミ缶200トをはじめ、サッシなどのアルミ類200ト、

鉄200ト、銅・真鍮類100トなどを安定して取り扱う。沖縄県内には製錬メーカーが無いため、主力のアルミ缶はプレス加工した後に関東や海外などの県外へ向けてトレーラーやコンテナを用いて出荷する。一方、鉄は県内の鉄鋼メーカーに出荷して地産地消のリサイクルを行っている。

浦添本社は那覇市中心街から車で10分ほどの好立地に位置している。建屋型のヤードには中小様々なトレーラーが次々にアルミ缶などのスクラップを運び込み、作業員が手際よく対応する。この光景こそが、三和金属の大きな特徴だ。顧客数のうちの6〜7割が一般の持ち込みという。同社は誰でも利用できる会社をモットーにしている。「金属リサイクルを身近なものにしたい」と、看板やテレビCMなどを通じて会社やリサイクルを広くPRしてきた。県内唯一の鉄道・ゆいレールでは会社のラッピングを施した車両が街中を走行している。CMで流れる、オリジナルキャラクター「アルミちゃん」と「アリーくん」の哀愁を感じさせる掛け合いは、笑いを含みながらもリサイクルの重要性をしっかりと訴えている。こうした活動が多くの一一般ユーザーと三和金属を結び付けてきた。

2011年には、太平洋に面する西原町の工業団地内に敷地面積およそ400坪の西原営業所を開設した。本社機能を補填しつつ、会社全体の加工処理能力を増強している。オープン型のヤード内にペーラーマシンを2基設置。アルミを中心とした非鉄や雑品、鉄スクラップなどの各種リサイクル原料を加工している。

誰でも利用できる会社がモットー 「リサイクルを身近なものに」

日本列島の南西端に位置し、かつては琉球と呼ばれる独立国家であった沖縄は、古くからアジア各国との交易が盛んに行われてきた地域だ。戦後はアメリカの統治下に置かれた。積み重ねてきた長い歴史の中で、独特の文化を育んでいる。県内には現在およそ147万人が居住。2022年10月の統計で本土復帰後、初めて人口減少に転じたものの、出生率は全国トップが続いている。今回のリサイクル紀行は、那覇・浦添エリアを中心に金属類の資源リサイクルを行う三和金属(本社)と沖縄県浦添市、具志堅義社長を訪れた。

浦添本社は那覇市中心街から車で10分ほどの好立地に位置している。建屋型のヤードには中小様々なトレーラーが次々にアルミ缶などのスクラップを運び込み、作業員が手際よく対応する。この光景こそが、三和金属の大きな特徴だ。顧客数のうちの6〜7割が一般の持ち込みという。同社は誰でも利用できる会社をモットーにしている。「金属リサイクルを身近なものにしたい」と、看板やテレビCMなどを通じて会社やリサイクルを広くPRしてきた。県内唯一の鉄道・ゆいレールでは会社のラッピングを施した車両が街中を走行している。CMで流れる、オリジナルキャラクター「アルミちゃん」と「アリーくん」の哀愁を感じさせる掛け合いは、笑いを含みながらもリサイクルの重要性をしっかりと訴えている。こうした活動が多くの一一般ユーザーと三和金属を結び付けてきた。

2011年には、太平洋に面する西原町の工業団地内に敷地面積およそ400坪の西原営業所を開設した。本社機能を補填しつつ、会社全体の加工処理能力を増強している。オープン型のヤード内にペーラーマシンを2基設置。アルミを中心とした非鉄や雑品、鉄スクラップなどの各種リサイクル原料を加工している。



浦添本社 (沖縄県浦添市)

SH135X-7EC (西原営業所) 入する住友建機の4機も、三和金属の事業スタイルに応じて最適な機械を選定した。住友建機はこれからも、機械を通して両社の信頼関係を支えていく。

～住友建機がある風景～



SH135X-6EC：浦添本社の工場建屋内で稼働する(浦添本社) SH135X-6ECは、都市型ヤードでの作業に適した省スペース・小旋回型のマシンだ。沖縄の機械の特徴である「ジーバート塗装」を施しており、潮風から機械を守っている。

相互理解で最適な機械を

三和金属では2023年7月現在、浦添本所で1機、西原営業所で5機の住友建機製マシンを保有しており、工場や取り扱う品種など、それぞれの現場の用途に応じて稼働している。すでに4機(SH135X-7B・2機、SH200LC-7LM、SH75X-7B)の新規導入が決まっており、工場内において住友建機の存在感が高まっている。

具志堅義社長は、タフな現場で安定したパフォーマンスを発揮する機械性能のほか、販売代理店の佐久本工機(本社=沖縄県浦添市、佐久本嘉幸社長)が実施する充実したサポートに信頼を置く。同社との付き



西原営業所 (沖縄県西原町)

合いは長く、相互理解が深い。これが、運用における円滑なサポートを実現している。新規導



入する住友建機の4機も、三和金属の事業スタイルに応じて最適な機械を選定した。住友建機はこれからも、機械を通して両社の信頼関係を支えていく。

担当：藤田 海人
 今年4月より沖縄に異動となり担当させて頂いております。お客様にとってより良いご提案ができるよう今後も精進致します。



住友建機販売株式会社 沖縄営業所
 〒901-2132 沖縄県浦添市伊祖1丁目33-1-405号
 Tel: 050-9001-8651 Fax: 098-875-0546